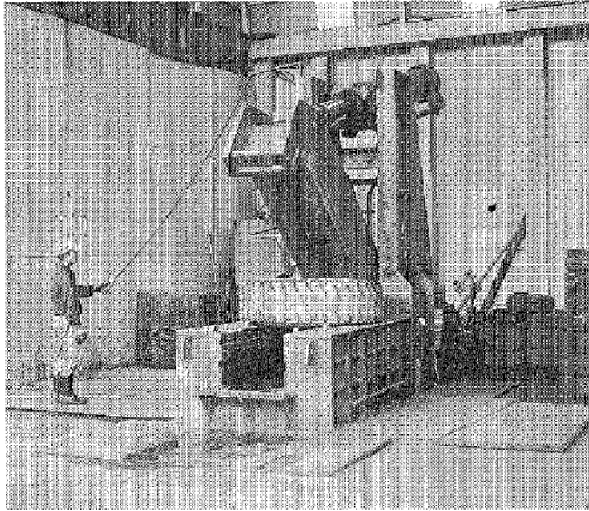


# ゴム加工品受入強化

## タイヤチップとともに原・燃料化

### 免震ゴム処理可能



業界初導入のマルチシャー

#### 神鋼産業

廃タイヤなどのゴム製廃棄物の受け入れ・再資源化を行う神鋼産業(本社・神奈川県伊勢原市、清水孝一社長、☎0463・91・3663)は、ゴムクロ

マを、免震ゴム・防振材をはじめとした、処理が困難なゴム製品の受け入れを強化する。中部地方などからも処理依頼があり、存在感

を強めている。同社は、メインの廃タイヤ再資源化だけでなく、ゴム加工品の受け入れにも力を入れている。1本で数百ギガを越えるゴムクロマを切断する、1日当たり40ジの処理能力を持つ大型のマルチシャーを業界で初めて導入した。現在では免震ゴムの処理に関する特許を所有しており、処理困難な製品の再資源化ができる。

廃タイヤについて、1日当たり約1万本をチップクラッシュャーでタイヤチップに加工する。タイヤチップは、主に製紙工場の代替燃料として納入し、品質と供給面で高い評価を得ている。

2012年に神奈川県内の優良産廃処理業者認定を受けており、伴う責任へ真摯に配慮し、信頼を培ってきた。東京・神奈川を中心にタイヤ販売店、自動車ディーラー、カー用品量販店約1500店舗の廃タイヤを回収し、代替燃料に加工することで、環境に貢献する。

直し、安定した事業の継続を図る。近年燃料用タイヤチップの値下げがあり、これに伴う処理料金の値上げにも多くの顧客は理解を示してくるなど、周辺からかかる期待は大きい。

外的課題として、タイヤチップの余剰がある。これは使用工場での、他の燃料との競合や操業の状態もある。業界としてもタイヤチップの用途開拓を進め、タイヤリサイクルチェーンの連鎖を切ら

る。清水社長は、「重い責任はあるが、それだけの信頼を顧客からいただいている。リサイクルの循環を滞らせてはいけない」と述べている。

内的には人件費の高騰やドライバー不足などの課題はあるが、コストをセロベースで見

る。